

渡部昇一著「講談・英語の歴史」 PHP 新書、PHP 研究所、2001 年 7 月 27 日刊を読む

1. (1)○この、ヴォキャブラリー問題を、イギリスに留学していた頃に痛感した。

①私は、論文を英語で書いていた。難しい英語の専門書を読むことができた。

②しかし、イギリス滞在中、ホテルのラウンジで、アメリカ人の学者たちが、「ニューヨーク・タイムズ」や「タイム」をぱらぱらと見ているのに、私はそれができなかった。

③テキストの正確な理解度、テーマについては、英語で発表する文章力の方は私の方が上でも、彼らのように、「タイム」や「ニュース・ウィーク」を、ホテルで、ぱらぱら読むことはできなかった。

・ こうした新聞や雑誌の文章は難しくないのにである。

(2)○では、なぜ読めないのである。

①それは、私の知らない単語が莫大にあるからであると、私は悟った。

②このことを痛感した私は、「タイム」「ニュース・ウィーク」を読みながら、「単語帳」をつくり始めた。

③そして、「ヴォキャブラリー・ビルディング」を自分に課すことにより、不十分な自分の語彙の問題を解決した。

(3)①ボディビルディングをやると、思いものでも持ち上げられるように、「ヴォキャブラリー・ビルディング」をやると、わりに簡単に単語力がつく。

②これから英語を学ぶ際には、「ヴォキャブラリー」が入れられるべきである。

③<参考>語源に分解し教える方法をとり、教え方がうまい、ノーマン・ルイスの「Word Power Make Easy」をマスターすると、知らない単語はほとんど出てこなくなるぐらい、「タイム」「ニュース・ウィーク」が楽に読める。

・ 実にいい本である。

2. (1)①英文法の基本的ルールをマスターするまで努力さえすれば、様々な差別を乗り越えられる。

②だから私は、学生にきちんと修得するように勧める。

③外国に出かけて買い物するだけなら構わないけれども、留学をしたり、試験を受けたり、契約するなどの次元で英語を使う人間が、「私は、ジャパニーズ・イングリッシュだ」といっても、絶対に教授や、契約相手は相手してくれない。

(2)①レポートの中で、単数複数の間違いが何か所もあるようでは、何を書いてもだめだ。

②しかし、きちんと文法にしたがって書けば、向こうの先生は目をむく。

③ディグリー(学位)を取ろうという人は、とにかく、英文法が大切だと教えるのが適切である。

(3)①発音は、英語圏で暮らして、直す努力をしていれば、相当程度、きれいになる。

②私がアメリカにいたときに、東欧から亡命してきたインテリが教授になっていた。

③ひどい発音で授業をしていたが、ヴォキャブラリーはしっかりしていた。

3. ①子どもの時からそのコミュニティーにいるわけではないから、発音はよくないに決まっている。

②しかし、直す努力をしながら、長くいれば、必ずよくなる。

・だから、許してもらえる。

③大切なのは、やはり「英文法」と「豊かなヴォキャブラリー」である。

<コメント>

(1) 「一度学んだ英語は、スラスラよく読めるようになるまで、発音練習・暗唱、書き取り練習をすることを「英語の学習習慣」として身に着けること。

(2) 「意味の分からぬ語句」、「発音の分からぬ語句」は、「辞書で意味を調べる」こと、「発音記号を調べる」こと。

(3) 調べた「意味」「発音記号」は、「意味調べノート」に書き写し、その場でしっかり覚えること、書き取り練習もすること。

「効果の上がる学習方法」として、たとえ短期間でも、開倫塾に在籍している間に、すべての塾生に是非、御指導ください。

よろしくお願ひいたします。

気温が低い日が続きます。お体お大切に。

来年も、よろしくお願ひいたします。

2025年12月31日(大晦、おおつごもり)5時10分